

平成 25 年度 事業報告

公益社団法人日本スカッシュ協会

(1) スカッシュ競技の普及に関する事業

① スカッシュデー・スカッシュウィークの実施

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

主管：全国のスポーツクラブ及び地区支部等

日程：<スカッシュデー>平成 26 年 2 月 11 日

<スカッシュウィーク>平成 26 年 2 月 8 日～23 日

会場：全国のスポーツクラブのスカッシュコート等

目的：スカッシュの楽しさをより多くの方々に体験して頂きスカッシュの一層の普及を目的とする。

対象：一般の方、どなたでも。

参加人数：14 カ所、515 名

内容：スカッシュ体験会、団体戦、大会、プチレッスン、ゲーム大会、グループレッスン、ヒッティングパートナー、的当て大会、ジュニア練習会、エンジョイスカッシュ、ジュニア合宿、対抗戦、普及促進イベント、3/4 ラリー等

② 広報活動

イ) 広報機関誌<SQUASH>の発行(年 2 回を予定)

Vol. 73 (夏の号) 7 月 25 日発行

Vol. 74 (冬の号) 平成 26 年 2 月 25 日発行

ロ) 協会ホームページの運営

ハ) 携帯メールによる情報の発信の実施

ニ) 体育協会記者クラブ等マスコミへのプレスリリース等情報発信

ホ) 記者会見の開催

※8 月 30 日、「小林海咲・松井千夏両選手」記者会見をヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE にて開催。

※9 月 9 日、「2020 年オリンピック競技決定」の記者会見を岸記念体育館にて開催。

ヘ) トップ選手の投稿協力により、マルハニチロのフェイスブックにてスカッシュ競技を紹介

③ 大会等のスポンサー対策及び増進

④ 環境対策委員会にて JSA エコプロジェクトを推進

(2) スカッシュ競技の競技力の向上に関する事業

① アクションプラン活動とアクションプラン募金活動

目的：世界に通じる選手の育成と指導者の養成を目的とする。

対象：選手強化活動とコーチ養成の活動を対象とする。

内容：

イ) ナショナル強化プロジェクトチームによる JSA 強化指定選手の選考と強化を図った。

ロ) 全国地区支部や協会の大会等に於ける募金活動（募金は主に海外遠征等の充実の為に活用）

② ナショナルスカッシュ強化練習会及び合宿の開催

イ) 5月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：5月9日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

参加人数：3名

ロ) 5月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：5月23日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

参加人数：6名

ハ) 5月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：5月25日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

参加人数：6名

ニ) 7月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：7月28日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

参加人数：5名

ホ) 9月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：9月12日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

参加人数：2名

ヘ) 9月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：9月12日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

参加人数：2名

ト) 9月度ナショナルトレーニング

主催：(公社) 日本スカッシュ協会

日程：9月29日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

参加人数：4名

- チ) 10 月度ナショナルトレーニング
主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：10 月 20 日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
参加人数：4 名
- リ) 10 月度ナショナルトレーニング
主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：10 月 26 日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
参加人数：2 名
- ヌ) 11 月度ナショナルトレーニング
主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：11 月 9 日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
参加人数 4 名
- ル) 11 月度ナショナルトレーニング
主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：11 月 16 日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
参加人数：2 名
- ヲ) 12 月度ナショナルトレーニング
主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：12 月 22 日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
参加人数：5 名
- ワ) 12 月度ナショナルトレーニング
主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：12 月 26 日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
参加人数：6 名
- カ) 1 月度ナショナルトレーニング
主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：平成 26 年 1 月 12 日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE
参加人数：3 名
- コ) 1 月度ナショナルトレーニング
主催：(公社) 日本スカッシュ協会
日程：平成 26 年 1 月 25 日
会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

対象：スカッシュ初心者レベルでのグループ作り等のサポートが可能な者

参加人数：10名、合格10名

成果：基本知識・基本ショットの正しいストローク方法・レフリー・マーカールの基礎知識等の習得、スカッシュの技術向上

⑤ JSA公認審判講習会と認定試験の開催・支援と公認<2級・3級・4級>

主催：(公社)日本スカッシュ協会及び全国の地区都道府県支部

日程：年10回全国で開催(下表)

目的：レフリー・マーカールの正しい知識を習得し、スカッシュ審判の一層の技術向上を目的とする。

対象：4級—一般、ジュニア等のスカッシュ経験が浅い者等。

3級—スカッシュの競技歴が1年以上と認められる者等。

2級—スカッシュの競技歴が3年以上と認められる者等。

参加人数：下表を参照

成果：イ)講習会：正しいルール、レフリー・マーカールのあり方、正しいジャッジ(判断)の進め方、トラブルの対処方法、観客や試合のコントロール方法の学習

ロ)筆記試験と実技(DVD)：試験の点数により認定の合否を決定

| 日程 | 会場 | 主催・ 主管支 部 | 受講 者数 | 受 験 者数 | 受験結果 | | | | 備考 |
|-------|-------------------|-----------------|----------|-----------|----------|----------|----------|----|------|
| | | | | | 2級 合格 | 3級 合格 | 4級 合格 | 追試 | |
| 4月28日 | 順天堂大学さくらキャンパス | 千葉 | 24 | 7 | | 1 | | 6 | |
| 5月26日 | 仙台市民会館 | 東北 | 12 | 10 | 1 | 1 | | 7 | |
| 6月16日 | 杉並区阿佐ヶ谷地域区民センター | JSA | 11 | 10 | | 3 | 1 | 4 | |
| 6月24日 | サッポロエスキューブ | 北海道 | | 4 | | | | 1 | |
| 7月8日 | 広島市佐伯区民文化センター | 中四国 | 14 | 17 | | 6 | | 5 | |
| 8月12日 | 大阪市立大学 | 関西 | 19 | 24 | | 2 | | 12 | |
| 9月1日 | SMBC コンシューマファイナンス | 東北 | | 4 | | | | | 追試のみ |
| 2月24日 | 西宮市中央公民館 | 関西 | 29 | 17 | | 2 | | 6 | |
| 3月24日 | 西宮市中央公民館 | 関西 | 19 | 21 | 1 | 2 | | 9 | |
| 3月24日 | セントラルウエルネス札幌 | 北海道 | 5 | 7 | 1 | | | 6 | |
| | | 計 | 133 | 121 | 3 | 17 | 1 | 56 | |

(3) スカッシュ競技の競技大会に関する事業

① 協会主催の競技大会

イ) 第24回全日本アンダー23スカッシュ選手権大会

日程：6月1日、2日

会場：スカッシュスタジアムSQ-CUBE

目的：日本のトッププレイヤーを目指す若いプレイヤーの育成強化を目的とする。

対象：23歳未満の男女

参加人数：80名
内容：トーナメント制
競技結果：男子優勝/海道 泰喜 (TECNIFIBER)
女子優勝/中元 和歌 (立命館大学)

ロ) 第27回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

公認：世界スカッシュ連盟 (WSF・ワールドジュニアサーキット)
アジアスカッシュ連盟 (ASF・アジアジュニアスーパーシリーズ)

日程：8月2日～4日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：海外のジュニア選手の参加により、日本の選手との交流と技術向上を目的とする。

対象：男子アンダー19&17、15、13、11、9の選手

女子アンダー19、17、15&13、11の選手

参加人数：約113名

競技結果：U19&17男子優勝：遠藤共峻 (TECNIFIBER)

U19女子優勝：河野里咲 (洗足学園中学高等学校)

ハ) 第19回マスタースカーニバル

日程：10月12日13日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：マスタース層の交流・技術向上

対象：男子オーバー30、40&45、50、55、60、65

女子オーバー30&40、45、50&55、60

トリオマッチ

参加予定人数：シングル144名、トリオマッチ93名

競技方式：トーナメント及びリーグ制、トリオマッチ

成果：19回目となり全国からたくさんの方が参加があり交流を図った。

ニ) 文部科学大臣杯争奪第42回全日本スカッシュ選手権大会

<平成25年度スポーツ振興基金・スポーツ振興くじ助成事業>

日程：11月21日～24日

会場：倉敷スポーツ公園 マスカットスタジアム

目的：交流と技術向上及び全日本チャンピオンの決定

対象：選手権/全国選手権上位入賞者及び規定資格保持者、日本国籍を有する者

男女マスターズ/各年齢対象者、日本国籍を有する者

参加人数：223名

競技方式：トーナメント制

競技結果：男子優勝/机 伸之介 (SALMING) V2達成

女子優勝/小林海咲 (Sunset Breeze) 5連覇

ホ) JOC ジュニアオリンピックカップ第18回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会

日程：平成26年3月28日～30日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

目的：日本のジュニア選手で年代別ジュニアチャンピオンを競う大会であり、

交流と技術向上を目的とする。

対象：男子アンダー19、17、15、13&15、13、11、9&11、9、女子アンダー19、17、15、13&15、9&11、13、11の選手で、日本国籍を有する者

参加人数：158名

競技方式：トーナメント制&リーグ制

競技結果：男子アンダー19 優勝/机 龍之介 (iBEX スポーツ)

女子アンダー19 優勝/渡邊聡美 (SALMING)

※上記2名はJOCジュニアオリンピックカップを授与、有望選手として推薦

② 協会後援大会

イ) PRO SQUASH in JAPAN YOKOHAMA 2013

日程：8月27日～9月1日

会場：ヨコハマスカッシュスタジアム SQ-CUBE

競技結果：男子優勝/ Omar Abdel Meguid (エジプト)

女子優勝/ 小林海咲 (日本チャンピオン)

③ 海外大会日本代表派遣

イ) ミロ・オールスタージュニアスカッシュ選手権

日程：5月28日～6月2日

開催地：マレーシア、ペタリンジャヤ

種目：男女アンダー19,17,15,13,11

参加：331名

日本チーム：選手11名、役員2名 計7名

主な戦績：男子アンダー19/小林僚生/準優勝

女子アンダー15/渡邊聡美/ベスト8

ロ) 第24回男子世界団体スカッシュ選手権

<JOC 平成25年度NF選手強化事業>

日程：6月9日～6月15日

開催地：フランス

種目：団体戦

参加：男子31カ国

日本チーム：選手4名、役員2名、計6名

戦績：日本22位

ハ) 第20回アジアジュニアスカッシュ選手権 個人戦

<JOC 平成25年度NF選手強化事業>

日程：6月25日～29日

開催地：ヨルダン アンマン

種目：男女個人戦

日本チーム：選手6名、役員2名、計8名

主な戦績：女子アンダー15/渡邊聡美/5位

ニ) 第8回東アジアスカッシュ選手権大会

<JOC 平成25年度NF選手強化事業>

日程：7月12日～14日
開催地：中国 天津
種目：男女別の団体戦
参加：6ヶ国
日本チーム：選手6名、役員1名 計7名
戦績：日本男子3位入賞、女子4位

ホ) 2013 世界ジュニアスカッシュ選手権 (男女個人戦・女子団体戦)

<JOC 平成 25 年度 NF 選手強化事業>

日程：7月16日～21日(個人戦)、7月22日～27日 (団体戦)

開催地：ポーランド ヴロツワフ

種目：個人戦・団体戦

日本チーム：選手男子/1名、女子/4名 役員1名 計6名

主な戦績：女子団体戦/9位 (日本女子ジュニア過去最高)

(選手：男子/増田成吾、女子/杉本梨沙、渡邊聡美、中平百香、白石彩華)

ヘ) 第9回ワールドゲームズ2013カリ大会

日程：7月25日～8月4日 (スカッシュ：8月2日～8月4日)

開催地：コロンビア カリ

日本参加：選手2名、役員1名、計3名

主な戦績：小林僚生 (1回戦敗退) 小林海咲 (ベスト8)

ト) 2013 香港ジュニアオープン

日程：8月7日～11日

開催地：香港

種目：男女アンダー19,17,15,13,11,9

参加：16カ国、500名

日本チーム：選手10名、役員2名、計12名

主な戦績：男子アンダー19/遠藤共峻/準優勝

男子アンダー17/机龍之介/3位

女子アンダー15/渡邊聡美/優勝

チ) 第2回アジアユースゲームズ

<JOC 平成 25 年度 NF 選手強化事業>

日程：8月16日～24日(スカッシュ：8月17日～23日)

開催地：中国 南京

種目：個人戦・団体戦

日本チーム：選手男子/3名、女子/3名 役員1名 計7名

主な戦績：男子団体戦/5位入賞 女子団体戦/3位

個人戦/ 机龍之介ベスト16、 渡邊聡美ベスト8

リ) 第6回東アジア競技大会

<JOC 派遣事業>

日程：10月5日～10日

開催地：中国 天津

種目：個人戦・団体戦

日本チーム：選手6名、役員2名、計8名

主な戦績：男子団体戦/銀メダル 女子団体戦/4位

個人戦/ 福井祐太 銅メダル、松井千夏 銅メダル

ヌ)「2014 アジア競技大会 仁川」及び「アジア選手権」代表選考会

日程：男子/平成26年1月10日11日、女子/1月17日

開催地：東京アメリカンクラブ

参加：男子/4名、女子/2名

④ 海外派遣承認大会

イ) 2013 Canadian Junior Open

日程：12月7日～10日

参加：1名

ロ) REDtone KL Junior Open Squash Championships2013

日程：12月10日～15日

参加：9名

ハ) Buff Singapore Squash Open 2013

日程：12月18日～22日

参加：2名

ニ) US Junior Open Squash Championships 2013

日程：12月14日～17日

参加：2名

主な戦績：女子アンダー15/ 渡邊聡美 優勝

ホ) British Junior Open 2014

日程：平成26年1月2日～6日

参加：3名

ヘ) Scottish Junior Open 2014

日程：平成26年1月7日～9日

参加：1名

⑤ 国際大会の日本開催に向けての資金及び情報の収集

目的：ジャパンオープンスカッシュ選手権大会や東アジアスカッシュ選手権大会等、海外選手と対戦する機会を作る事により日本選手の技術の向上を図る。又、国際大会を開催する事により間近で海外トップ選手のプレイを観戦する機会を作り、より多くの人々にスカッシュへの関心を高めてもらい一層の普及を図る。

計画：これまで大会開催積立を続けてきたが、今年度は決算が赤字の為積立をする事が出来なかった。

2014年の東アジアスカッシュ選手権大会日本開催の準備を進めたが、予算的には厳しい状況である。

(4) その他本会の目的を達成する為に必要な振興事業

① アジア競技大会に向けてのロビー活動及び選手強化活動

目的：2014年のアジア競技大会では、メダル獲得に向けて選手強化を一層充実させた。

対象：男女ナショナルチーム。

種目：男女個人戦、団体戦

内容：選手強化の為にトレーニングを集中して行った。

② オリンピック競技大会での正式競技入り実現の為に推進活動

目的：スカッシュの普及発展の為に、WSF（世界スカッシュ連盟）との連携により、IOC（国際オリンピック委員会）並びに開催国スカッシュ協会への2020年オリンピック競技入り要請運動を展開した。

内容：2020年オリンピックの最終3候補競技となったが、12月の国際オリンピック委員会（IOC）の会議にて残念ながら入らなかった。

IOCによりオリンピック競技の見直しが検討されているので、12月の最終決定までに再度東京オリンピックの競技入りに向けて活動を続ける。

③ ドーピング検査及びドーピング防止啓蒙活動

<平成25年スポーツ振興くじ助成>

目的：（公財）日本ドーピング機構に加盟して、競技会検査及びドーピング防止の為に啓蒙活動を積極的に行う。

内容：第42回全日本スカッシュ選手権大会にてドーピング検査を実施
協会機関誌にてドーピングについての記事を掲載し啓蒙活動を行った。

④ 会員募集事業と公認事業制度の運用

目的：個人会員登録及び協会公認・承認大会への参加は（株）アプロード運用の「スポーツエントリー」を利用して利便性を図った。平成23年度より大会参加に関しての「スポーツエントリー」の利用は、主催者の判断に委ねている。

世界スカッシュ連盟（WSF）の規格に基づいて、コート及びボールの公認を行いスカッシュ競技の安全性や統一を図った。

又、公認大会の運用（要項、ドロー、結果の確認及び公認）やランキング等の発表を行い、公認大会の全国統一とレベルアップを図った。

⑤ 世界スカッシュ連盟、アジアスカッシュ連盟、東アジアスカッシュ連盟、各国協会、男女国際プレーヤーズ協会等海外との連絡調整

目的：海外対策委員会を中心に海外の情報収集及び国内情報の発信及び海外との協力体制で積極的な活動を行った。

内容：東アジアスカッシュ連盟総会に出席、小澤

⑥ 全日本学生連盟との連携、強化

目的：3年前より学生連盟の所属選手も個人登録とし、協会機関誌を個別に発送する事により情報を一層密に伝達した。又、大会等における協力体制を強化した。

⑦ 「(公社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」建設に向けた資金及び情報の収集

目的：スカッシュ人口増大の為には、協会保有のスカッシュコートを建設しての普及活動が不可欠。又、集中的な選手強化の為にもスカッシュコートを含むトレーニングセンターの建設が必要。国や自治体の協力を得て「(公社)日本スカッシュ協会ナショナルトレーニングセンター(仮称)」の建設を目指し、資金と情報の収集に努力した。

計画：改修予定の国立競技場にスカッシュコートを設置して頂けるように引き続き依頼を続けたが、大幅な規模の縮小により厳しい状況である。引き続き周辺施設や他施設への設置依頼を続ける。

⑧ 公益法人としての活動の強化

目的：公益社団法人としての適正な活動を行い、スカッシュの一層の普及振興に努力した。